

1 事業名 令和2年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動事業
How To ボランティア ～ボランティア活動の基本を学ぼう～
兼「NEAL自然体験活動指導者（リーダー）養成研修」

2 趣 旨

「How To ボランティア～ボランティア活動の基本を学ぼう～」

講義や演習、野外活動体験等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

「NEAL 自然体験活動者（リーダー）養成研修」

専門的な講師の指導の下、自然体験スキルを習得することで、ボランティアに必要な資質・能力を高めるとともに、NEAL リーダーとして必要な知識・技術を身につける。

3 期 日 令和2年6月20日（土）～6月21日（日）

4 参加者 ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生 57名
（高校生46名 大学生10名 一般1名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 内 容

(1) 日 程

6月20日（土）

9:00	9:15	9:30	11:00	11:30	12:00	13:00	14:30	14:45	19:15	19:30	20:30	21:30	22:30
受付	開 会 行 事	青少年教育施設の 現状と運営	NEAL概論I 写真撮影	昼 食 ・ 休 憩	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 意 義	移 動	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 技 術 課 題 解 決 型 野 外 炊 事	移 動	法 人 ボ ラ ン テ ィ ア 制 度 と 登 録 に つ い て	青 少 年 教 育 施 設 に お け る ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	入 浴 ・ 休 憩	就 寝	

6月21日（日）

6:30	7:00	7:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00	15:30	
起 床	洗 面 ・ 清 掃	朝 の つ ど い	朝 食 ・ 休 憩	安 全 管 理 ・ 救 急 救 命 法 ・ 熱 中 症 予 防 対 策	昼 食 ・ 休 憩	青 少 年 教 育 と 体 験 活 動	ア ン ケ ー ト 記 入	閉 会 行 事	解 散

(2) 指導者

東北学院大学地域連携センター 特任准教授
株式会社大塚製薬工場
国立岩手山青少年交流の家 所長
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職
国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職付
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係
国立岩手山青少年交流の家 事業推進係
指導補助

渡邊 圭 氏
盛越 琢朗 氏
小野 保
鈴木 茂
杉本 守
日比野 功宜
小笠原 洋介
中島 理佐
法人ボランティア

(3) 企画のポイント

ボランティア活動に興味関心をもつ高校生・大学生が、ボランティア活動の基本について、講義・演習をとおして学び、ボランティアとして活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキルを身につけるため、事業のプログラム構成に当たっては、主体的に取り組める体験プログラムの提供を意識した。また、ボランティア活動体験があり、幅広い見識をもつ講師を招聘した。NEALリーダー養成研修として、ボランティア活動とともに自然体験活動への興味・関心が広がるようなガイダンスとした。

(4) 広報のポイント

青森、秋田、岩手の三県の大学と岩手県内の高等学校には、チラシを配布する広報を行った。ま

た、施設のホームページにおいて、申込フォームを設け、インターネット上から申し込めるようにした。その他には、例年、直接近隣の大学に赴き、説明会の場を設けていたが、新型コロナウイルスの影響もあり今回は実施が出来なかった。代替案として、盛岡大学の学生ポータルサイトに説明会の動画を掲載してもらったり、岩手県立大学では、本事業の指導者である東北学院大学地域連携センターの渡邊圭特任研究員が非常勤講師として教鞭をとる講義「地域社会とボランティア」の中で、本事業と法人ボランティアについて取り上げていただいたりし、周知を図った。

(5) 運営のポイント

講義の講師として、ボランティアについての造詣が深く、経験豊かな東北福祉大学地域連携センターの渡邊氏を招聘した。主体的に意見交換をしながら活動できるよう、意図的・計画的にグループ協議の場を設けた。また、参加者の緊張感を解き、安心して研修に参加できるように、アイスブレイクを講義の初めに行った。「ボランティア活動の技術」では、野外活動を安全に行うための知識を学び、活動中も安全管理を意識させた。さらに、班の交流を深めることができるように、解決型野外炊事「カレーコンテスト」を実施した。法人ボランティアを中心に運営し、松ぼっくり拾いで隠し味の食材を選ぶ競技性を持ったゲームを組み込み、工夫して隠し味をカレーに入れ、職員の審査によるコンテストを実施した。「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、今後のボランティア活動に見通しがもてるように、岩手山青少年交流の家で行われている事業を紹介した。法人ボランティアも、先輩としてのやりがいを感じ、自己肯定感が高まるように、本部付きのスタッフではなく、参加者から一番近くの立ち位置で交流ができるよう、班付きのリーダーとして組織した。「安全管理」では株式会社大塚製薬工場の盛越氏にご登壇いただき、野外活動における熱中症対策について、ご講義いただいた。「青少年教育と体験活動」では、実際の事業場面を想定した課題をロールプレイングで班ごとに発表し、他グループと情報を共有しながら学んだ。

8 成果とその普及

参加者同士が交流する場面を多く設定できたことにより、参加者が主体的、意欲的に取り組む様子が見られた。東北学院大学から招聘した渡邊氏の講義により、参加者同士が交流を深めながらボランティアについて自然に考えることができる流れの講義を組んでいただき、今後のボランティア像などの理解を体験的に深めることができた。参加者のうち、社会人を除く学生参加者43名が、法人ボランティア登録を行った。本事業の参加者に対して、ボランティア活動の意義や魅力を十分に伝えることができた。また、法人ボランティアを班付きとして組織したことで、参加者の声を聴きながら講義を受けることができた。そして、参加者の補助を行い、アドバイスをすることで自分たちが法人ボランティアになった時に憧れていた先輩に、今、自分になっているという実感をもつことができ、意欲を高めることができたのではないかと感じた。

今回の参加者の大半が高校生であった。今後も積極的に近隣の高校に募集をかけることで、法人ボランティアの獲得につなげていきたい。そして、彼ら彼女らが県内の大学に進学した暁には、積極的に法人ボランティアとして活動してくれるよう今から積極的に働きかけを行っていく必要性があると感じた。

9 今後の課題

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、「安全管理」の救命救急法の講義を、消防などの外部講師に依頼することが出来なくなってしまった。幸い、当所の職員の一人が救命救急普及員の資格を持っていることで事なきを得たが、今後、事業の実施に際しては、講義を外部講師に委ねるばかりではなく、講習会に参加し資格を取得するなどして、職員が事業の講義を担うことで、より柔軟に事業運営が出来るのではないかと感じた。



救急救命法の様子



野外炊事の様子



講義の様子